

# 念願！51日ぶりの出荷



9月15日、東町漁協は、赤潮による被害で中断していた養殖ブリ（鯨王）を51日ぶりに出荷再開しました。

当日は早朝から薄井漁港で、浦底湾のいけすから運び込まれた2年物の約4キロのブリが次々に水揚げ計量され、久しぶりに活気が戻りました。

この日の出荷は約1000匹、半分は絞めた後箱詰めされ、残りは加工場でフィレに加工されました。

輸送用のトラックは2台準備され、1台は広島から金沢まで、もう1台は姫路から大阪、関東へ向けて出発しました。

この日は、同港加工場前で出荷再開式があり、県、町の関係者や漁業関係者が集まりました。長元組合長は「51日ぶりの出荷となり大変うれしい。残ったブリを大切に育て、順調に出荷していきたい」と抱負を述べました。

川添町長も「いろいろな方の協力があつてここまでたどり着けた。今後も、国や県の支援をいただきながら、赤潮の原因究明や避難場所の調査していただき、特例措置法をぜひ可決していただきたい」とあいさつされました。

ブリを出荷した宮脇和彦さんは、養殖していた1万匹余りのうち6割の被害にあいましたが、出荷再開でき、うれしそうな表情でした。

